

2001年4月27日

県民意識調査 小泉内閣発足

報告書

(2001年4月26日調査)

| | |
|-------|---|
| 調査の設計 | 1 |
| 結果の概要 | 3 |
| 単純集計 | 5 |



社団法人 長野県世論調査協会

Tel 026-233-3616 Fax 026-233-3610
<http://www.nagano-yoron.or.jp>

I 調査の設計

◆ 調査の目的

自民党総裁選で「改革」と「脱派閥」をうたい文句に、予備選から一挙に政権へと突っ走った小泉新内閣が発足した。長野から千葉に至る一連の県知事選挙で、無党派候補が進出した“地方の反乱”が中央政治に波及した観を呈している。

派閥の統制力が空洞化し始めたなかで、女性5人、非議員3人を起用した「改革断行内閣」(小泉首相)は「景気回復か、財政再建か」の優先課題の選択に直面しつつ、三カ月後に控えた参院選にむけて、前内閣で低下したリーダーシップの回復へと“小泉革命”の実が問われる。

県民がこの異色の新内閣誕生をどのように受けとめ、政策の取り組みを見守り、日本の政治の方向を展望しているのか、各層の声を探る。

◆ 調査の設計

調査対象

長野県内に住む20歳以上の800人(男性400人 女性400人)

抽出方法

東北中南の4地域に層化し“県内有権者の縮図”となるように、有権者比率などを基にした一定のルールで、県下120全市町村の中から対象となる45市町村を抽出。さらに、性別と年代別(県平均比率)に、具体的な市町村ごとのサンプル数を設定する。

調査方法

設定した市町村別のサンプル数にしたがい、NTT電話帳をもとに、無作為抽出した世帯から1人を回答者とし、最終的に設定どおりのサンプル数を満たすまでコール(抽出)する。

調査期間 2001年4月26日

調査地点 17市18町10村の計45市町村

◆ 回収結果

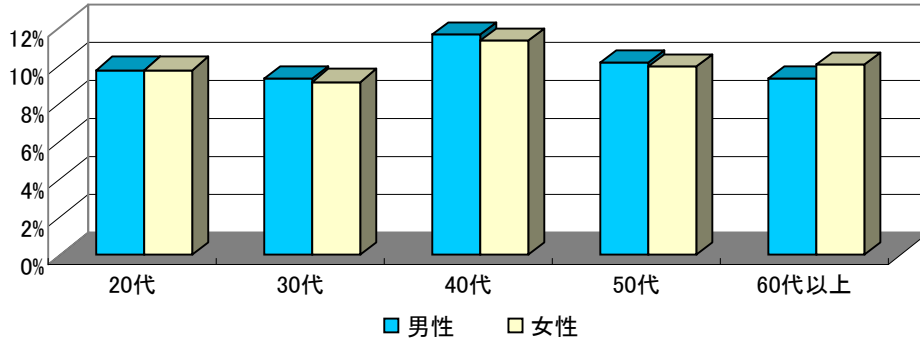
各市・各郡とも年代・性の人数に達するまで抽出を繰り返したので、有効回収数(率)は、対象者数と同じ800人(100%)。

◆ サンプルの内訳

総サンプル(回答)数=800

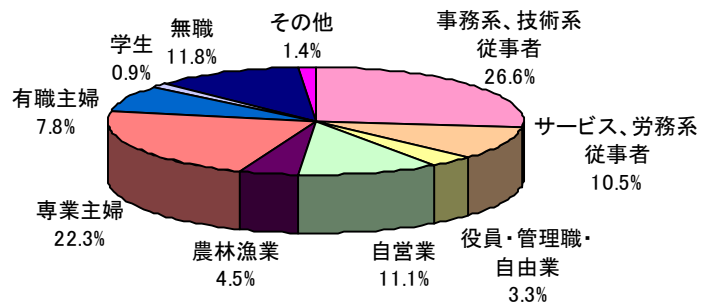
【性別と年代】

| | 全体 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 |
|----|--------------|------------|------------|-------------|-------------|-------------|
| 男性 | 400 50.0% | 78 9.8% | 74 9.3% | 93 11.6% | 81 10.1% | 74 9.3% |
| 女性 | 400 50.0% | 78 9.8% | 73 9.1% | 90 11.3% | 79 9.9% | 80 10.0% |



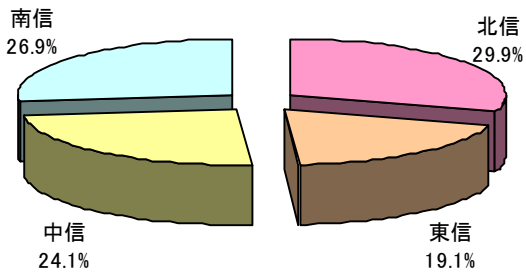
【職業】

| | | |
|-------------|-----|-------|
| 事務系、技術系従事者 | 213 | 26.6% |
| サービス、労務系従事者 | 84 | 10.5% |
| 役員・管理職・自由業 | 26 | 3.3% |
| 自営業 | 89 | 11.1% |
| 農林漁業 | 36 | 4.5% |
| 専業主婦 | 178 | 22.3% |
| 有職主婦 | 62 | 7.8% |
| 学生 | 7 | 0.9% |
| 無職 | 94 | 11.8% |
| その他 | 11 | 1.4% |



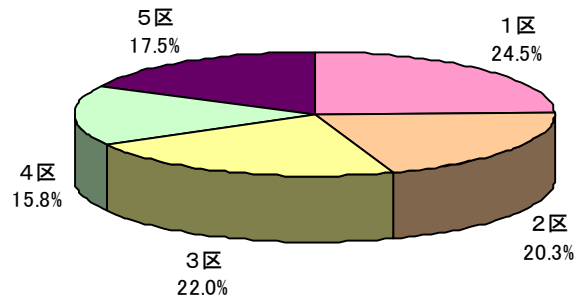
【地域】

| | | |
|----|-----|-------|
| 北信 | 239 | 29.9% |
| 東信 | 153 | 19.1% |
| 中信 | 193 | 24.1% |
| 南信 | 215 | 26.9% |



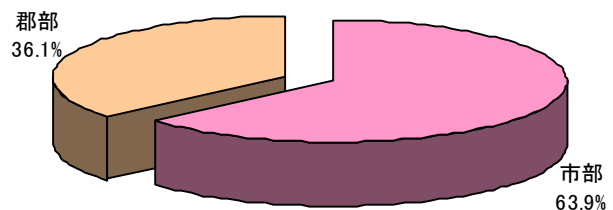
【選挙区】

| | | |
|----|-----|-------|
| 1区 | 196 | 24.5% |
| 2区 | 162 | 20.3% |
| 3区 | 176 | 22.0% |
| 4区 | 126 | 15.8% |
| 5区 | 140 | 17.5% |



【市郡】

| | | |
|----|-----|-------|
| 市部 | 511 | 63.9% |
| 郡部 | 289 | 36.1% |



II 結果の概要

内閣支持

支持が 83.5%の高率に達し、94 年 4 月の羽田内閣発足時 79.0%を超えた。不支持は 7.5%。支持が下降一途のまま退陣を迫られた森前内閣の様相を、そっくり逆転する状況になった。自民党総裁選から組閣に至るまで「脱派閥」と「改革」をアピールした小泉首相の異色ぶりに、県民世論は田中県知事に寄せる期待感と底通するスタンスを示した。

若い世代の支持と男性の不支持がやや高めなのが目につく程度で性別、年代、職業層、選挙区のほとんどの面で、支持は 8 割以上を確保。政党支持層では自民党で 9 割と跳ねあがり、民主党でも平均を上回る。しかし、無党派層は平均をやや下回り、若干冷めた反応がうかがわれる。

内閣支持・不支持の理由

支持の理由は「政策に期待」が約半数を占めてトップ。女性で 6 割に迫る勢いで、男性よりも 10 ポイント以上も高め。続く「小泉首相だから」も全体で 3 割半ばを占める。その一方で「自公保連立」と「自民党中心」といった政権の基盤に対する評価は、合計でも 1 割に満たない。政党の軸が揺らぐ一方で、小泉首相特有の政策への共感や“個人人気”が濃厚に押し出された。

政党支持層では「小泉首相だから」について、自民党 26%と低く、党内がなおすっきりしない事情をうかがわせ、民主党 37%との落差がめだつ。自民党支持層は、その分「政策に期待」で埋め合わせるかたちになっている。

不支持の理由では、「政策に期待できない」「自公保連立」が 3 割台で上位に並び「自民党内閣」が続く。

望む最優先施策

「景気・雇用」がトップで「財政・税制」が続き、昨年 12 月の第 2 次森改造内閣発足時の数値とめだつた違いはない。自民党総裁選で最大のテーマになった「財政再建か、景気回復か」の優先課題の訴えには、景気派 6 割近く - 財政派 3 割半ばという結果に色分け。財政構造改革の看板を掲げる新首相とのズレが鮮明で、今後のかじ取りに微妙な注文がつけられたかたちだ。景気には男性の方が 10 ポイントほど強めで、女性では「福祉・年金」が二番手につける。

年代層で青年層が「財政・税制」、壮年層は「景気・雇用」、高齢層で「福祉・年金」が多めといった特徴がみられ、職業層でもサービス・労務系勤め人や自営業が「景気・雇用」、管理職層は「財政・税制」、農林業や無職層、主婦層で「福祉・年金」と、それぞれの切実さが映し出されている。

政党支持

自民党 24.9% - 民主党 13.1%と、新内閣支持の高さがそっくり両政党の攻防にも反映された。1年前の森内閣発足時と順位は同じだが、両党の開きは10ポイント以上に広がった。3位以下はぐんと支持率が下がって、2%台で公明党、共産党、同率で自由党、社民党が続く。支持政党なし層は5割ラインをわずかに割ったものの、引き続き高水準のまま。こんどの政局の話題性は別として、無党派層の基本的なスタンスに変化を及ぼしたとは、必ずしも即断できないようだ。

選挙区別では、自民党が全5区とも首位を確保。民主党は主力の3区で、無党派層からの流れ込みが若干みられるものの、支持層自体は2割に届いていない。女性の自民党支持率は、男性とほとんど違いはないが、民主党への不人気は続いたまま、支持政党なしが5割を突破。とりわけ、有職主婦では6割半ばに達する。

今後の政党再編成と参院選

政党再編成は「ポスト森」の流動的な状況での“隠されたテーマ”で、政権連立が恒常的になるなか、その手さぐりは小泉政権下でも続きそう。政党組み直しに「期待する」が6割を超え「期待しない」の倍近く。

そうした変化を期待する状況下で、3カ月後に行われる参院選で「議席を減らすことを期待する政党」は、自民党が3割台で最も多く、政党支持率の高さと表裏を成す。次いで公明党が2割近く。連立政権サイドに厳しい反応が出ているのと対照的に、民主党はごく低率の好位置をキープしている格好だ。

政局のテンポが加速しそうな情勢の一方で、次の衆院選のタイミングは「時期にこだわらない」が半数を超えたが「7月の参院選まで、もしくは同時」も結構多めになっている。

無党派層が常に世論の半数を占め、既成政党や派閥の存在感が薄らぐ流れが進むなかで、首相を選ぶ方式をめぐる是非の応酬が高まり「憲法を変えて公選に切り替える」が5割を占めた。「現在の議院内閣制のまま」はごく低率の一方で「憲法の枠内で改善」が4割を超え、現状維持の立場は総体で公選派と拮抗しており、今後の論議の深まりに方向性を託した。

Ⅲ 単純集計

◆小泉内閣「支持」8割を突破 「不支持」1割に届かず

| 問1 新しい小泉内閣を支持しますか | | |
|-------------------|-----|-------|
| 支持する | 668 | 83.5% |
| 支持しない | 60 | 7.5% |
| なんともいえない・わからない | 72 | 9.0% |

◆支持の理由－半数超える「政策に期待」 続く「小泉さんだから」

| 問2 支持する主な理由は何ですか | | |
|---------------------|-----|-------|
| 政策に期待できるから | 348 | 52.1% |
| 小泉さんが首相だから | 227 | 34.0% |
| 自民党・公明党・保守党の連立内閣だから | 40 | 6.0% |
| 自民党中心の内閣だから | 25 | 3.7% |
| その他 | 20 | 3.0% |
| なんともいえない・わからない | 8 | 1.2% |

◆不支持の理由－上位に「政策に期待できない」「自公保連立」

| 問3 支持しない主な理由は何ですか | | |
|---------------------|----|-------|
| 自民党・公明党・保守党の連立内閣だから | 18 | 30.0% |
| 政策に期待できないから | 18 | 30.0% |
| 自民党中心の内閣だから | 15 | 25.0% |
| 小泉さんが首相だから | 4 | 6.7% |
| その他 | 3 | 5.0% |
| なんともいえない・わからない | 2 | 3.3% |

◆望む最優先政策－「景気・雇用」トップ 「財政・税制」に大差

| 問4 小泉内閣にはどんな政策を最優先して取り組んでほしいですか | | |
|---------------------------------|-----|-------|
| 景気・雇用 | 375 | 46.9% |
| 財政・税制 | 202 | 25.3% |
| 福祉・年金 | 146 | 18.3% |
| 教育・文化 | 31 | 3.9% |
| 外交・安全保障 | 26 | 3.3% |
| その他 | 13 | 1.6% |
| とくにない・わからない | 7 | 0.9% |

◆「景気回復の優先の訴えに共感」6割近く

| 問5-A 自民党総裁選選挙の一連の動きについて・財政再建と景気回復のどちらを優先する政策の訴えがよいと思われましたか | | |
|--|-----|-------|
| 「景気回復の取り組み優先」がよいと思った | 464 | 58.0% |
| 「財政再建の取り組み優先」がよいと思った | 279 | 34.9% |
| なんともいえない・わからない | 57 | 7.1% |

◆首相の選び方―「改憲して公選制に」5割 現状維持派も接近

| 問5-B 自民党総裁選挙の一連の動きについて・首相の選び方は、今後どのようにするのが望ましいと思いますか | | |
|--|-----|-------|
| 憲法を変えて国民投票で選ぶ制度(首相公選制)に変えるべき | 403 | 50.4% |
| 憲法を変えずに国民の意見を反映させるように改善するのがよい | 336 | 42.0% |
| 国会で選ぶ現在の制度(議院内閣制)のままでよい | 49 | 6.1% |
| なんともいえない・わからない | 12 | 1.5% |

◆政党の再編成―「期待」6割で「期待せず」の倍近く

| 問6 政党が統一や分裂をしたり、新しい政党が生まれたりする政党の再編成が今後行われることを期待しますか | | |
|---|-----|-------|
| 期待する | 494 | 61.8% |
| 期待しない | 261 | 32.6% |
| なんともいえない | 45 | 5.6% |

◆参院選で議席減を望む―自民党3割強が筆頭 低めの民主党

| 問7 7月の参議院選挙では、議席を減らしてほしいと思う政党がありますか(2つ以内) | | |
|---|-----|-------|
| 自民党 | 263 | 32.9% |
| 公明党 | 154 | 19.3% |
| 共産党 | 78 | 9.8% |
| 民主党 | 41 | 5.1% |
| 社民党 | 36 | 4.5% |
| 保守党 | 25 | 3.1% |
| 自由党 | 20 | 2.5% |
| その他の政党 | 11 | 1.4% |
| とくにない | 362 | 45.3% |
| 答えたくない | 6 | 0.8% |

◆衆院選の時期―「こだわらない」半数超すが「参院選まで・同時」2割弱

| 問8 次の衆議院の選挙の時期はいつがよいと思いますか | | |
|----------------------------|-----|-------|
| 時期にはこだわらない | 434 | 54.3% |
| 7月の参院選まで、もしくは同時に | 145 | 18.1% |
| 今後1年内をめどに | 104 | 13.0% |
| 年内をめどに | 91 | 11.4% |
| なんともいえない・わからない | 26 | 3.3% |

◆政党支持―自民党に追い風2割半ば 民主党に11.8ポイント差

| 問9 どの政党を支持しますか | | |
|----------------|-----|-------|
| 自民党 | 199 | 24.9% |
| 民主党 | 105 | 13.1% |
| 公明党 | 23 | 2.9% |
| 共産党 | 22 | 2.8% |
| 自由党 | 17 | 2.1% |
| 社民党 | 17 | 2.1% |
| 保守党 | 3 | 0.4% |
| その他の政党 | 9 | 1.1% |
| 支持する政党はない | 397 | 49.6% |
| 答えたくない | 8 | 1.0% |